

令和7年度コミュニティ・スクール推進研修（小・中）（高・特）①実施報告

実施日：令和7（2025）年8月5日

第1回は、コミュニティ・スクール推進研修（小・中）と（高・特）を合同でオンライン開催し、63名の方に御参加いただきました。

○ 講話「コミュニティ・スクールを上手に活用するために～基礎から学ぼう CSの世界～」

下関市立大学教養教職機構 准教授 天野 かおり 氏

今回の講話では、コミュニティ・スクール（以下、CS）に関する基本的な知識や「社会に開かれた教育課程」の実現に向けたCSの活用方法、地域学校協働活動との一体的推進に向けた役割について、国の施策の経緯も踏まえながらお話いただきました。

特に、CSが地域学校協働活動を行うものという誤解されがちな現状に対し、CSは学校運営の改善を目的とするものであり、地域学校協働活動は地域づくりを目指すものであるという明確な区別を示されました。この二つを“両輪”として連携させることで、地域とともにある学校づくりが可能となること、それぞれの機能を十分に発揮させながら一体的な推進を図ることが重要であることを強調されました。

また、「協働」を実現するためには、学校のニーズに応じて地域がサービスを提供するということが起こりがちであることを念頭に置き、「学校の目標＝地域の目標」となるように方向づけていくことの重要性を示されました。今後は、地域には「つながりづくり」を、学校には教育課程を地域の方々に分かりやすく示すこと（“学びの地図”の提示）が期待されているという説明がありました。こうした取組を通じて、良いサイクルを実現してほしいという講師の強い期待感のこもった講話でした。



○ 協議「講義を通して気付いたことを共有しよう」

天野氏の講話を受けて、それぞれの立場でできることや心掛けていきたいことを「ワンステップシート」にまとめました。その後、校種ごとのグループに分かれて共有を行いました。前に一歩踏み出したいという受講者の思いを共有すると共に、CSについて、今後どのような取組を進めていくべきか改めて考える時間となりました。



★ 受講者の声 ★

- ・地域学校協働活動は活動であり学校運営協議会はあくまでも協議であるということで、それぞれの目的や役割分担が明確になりました。
- ・本日の研修より、それぞれの組織が独立して成立しているうえで、一体化することが有効とわかりました。また、学校運営協議会は改善、学校支援地域本部は地域づくりということや、それぞれの組織の成り立ちがわかり、ねらいも明確となりました。
- ・これまで、関係する資料を読んでなんとなく理解した気になっていた部分がクリアになりました。CSの目的を校内で共有することが大切だと感じました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL：028-665-7206

e-mail：skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp